

地域づくり団体(一戸町)



樹齢100年のどん栗の木と共に…

どん栗村運営協議会

- 設立：1989年
- 主な活動地域：二戸郡一戸町
- 代表 赤屋敷 信一



サポーターズの仲介で実現した山口県で里山活動を長年続けている「ランプの宿」のメンバー佐伯さん(右)、畑山さん(左)と交流する赤屋敷信一さん(中央)

●これまでの主な活動

村長の赤屋敷信一さんが何年かかけ、自身の敷地内に「いきいきぼっくり道場」「ブタコーモリの館」「おしんの家」など、大変ユニークな名前がつけられた施設を建設。

平成16年から3年間にわたり、地域づくりサポーターズの助成を受け、東屋、水車小屋、足湯小屋が建てられ、毎年町内外からたくさんの人たちを受け入れた。山村再生プラン事業の助成を受け、「どん栗菓子」の商品化やかやぶき職人養成講座の開催など、地域資源を活用した新たな事業に取り組んだ。

赤屋敷村長さんは、広大な敷地内を軽トラックを足にして精力的に歩き回り、まき割りや炭焼きなども自ら行うという元気さで、機織り名人の奥さんのタマさんと共に、息子さん一家や娘さん夫婦に囲まれながら、毎日毎時間を少しの無駄もなく過ごした。

※2020年赤屋敷さん逝去により活動を終了



趣のあるどん栗村の入口



施設内にあふれるどん栗村のユニークな村訓

地域づくり団体（一戸町）



一戸町の文化・芸術を陰日向で支え続ける

特定非営利活動法人いちのへ文化・芸術NPO

- 設立：2004年（2012年に改称） ●主な活動地域：二戸郡一戸町
- 目的：一戸町における芸能文化・文化財とスポーツ及び健康体力づくりの振興を図り、地域文化の向上とスポーツを通じた体力づくり、健康づくりを進め、個性豊かな地域づくりを推進。
- 代表 高橋 幹子 ●連絡先 0195-31-1400（一戸町コミュニティセンター）



大盛況を博した懐メロコンサート

●これまでの主な活動

「いちのへ文化・スポーツNPO」として、一戸町コミュニティセンター・図書館・総合運動公園の運営業務を受託し、町の芸能文化やスポーツ及び健康体力づくり、そして地域づくり活動に多大な貢献を果たす。平成24年に芸術文化事業に特化して活動を行うこととなり、団体名も「いちのへ文化・芸術NPO」と改称。以後、御所野縄文博物館の一部業務を町から追加受託したほか、コミュニティセンター・図書館の指定管理者となり、町の芸術文化振興・地域の活性化を目的として各種事業を展開している。

図書館事業では、図書館の管理運営を行い、フロア業務の他、学校へ出向き子どもたちに本の紹介を行う「ブックトーク」等派遣事業やおはなし会、映画会、各種講座などを開催。コミュニティセンター事業ではカラオケ倶楽部や童謡唱歌を楽しむ会、住民参加型のわわわのステージ等を毎月開催している。そのほか、御所野縄文博物館事業では、子どもたちから一般向けの各種体験事業やイベント実施、ミュージアムショップ運営、ラジオによる広報活動等多岐にわたる活動を行っている。



定例のとことこおはなし会

地域づくり団体（一戸町）



町と一体となって活性化を目指す

映画館「萬代館」利活用事業実行委員会

- 設立：2009年
- 主な活動地域：二戸郡一戸町
- 目的：地元に残る歴史的建造物である萬代館を最大限に利活用して、地域の活性化を図る。
- 代表 浪岡 洋一
- 連絡先 0195-33-2111
(一戸町産業課商工観光課内)



ゲストを囲み、関係者全員での集合写真

●主な活動

一戸町民に長年親しまれてきた歴史的建造物でもある萬代館が、生誕100年を迎えた平成20年に、映画館「萬代館」利活用事業実行委員会の活動は始まった。「カシオペア映画祭」や「萬代寄席」、「萬代ライブ」など、それぞれ工夫を凝らした催しには、町内だけでなく県内外からもたくさんの人たちが訪れて、萬代館という建物を味わいながらイベントを楽しんでいる。

「カシオペア映画祭」に招かれて一戸町を訪れたゲストの中には、それをきっかけに町やスタッフ、会場の雰囲気気に入って再来を希望する人も多く、今や萬代館は単に町民の憩いの場ではなく、一戸町を広く町外に発信する場ともなっている。

★2016年に、国登録有形文化財として指定を受ける

●主な受賞歴

令和3年度「いわて暮らしの文化特別知事表彰」受賞



映画祭のゲストの吉川晃司さんと、平山秀幸監督のトークショー

地域づくり団体（一戸町）



御所野遺跡を多方面から応援し続ける

御所野遺跡を支える会

- 設立：2001年
- 主な活動地域：二戸郡一戸町
- 目的：平成13年に会を発足させて研修を積み、平成14年に御所野博物館が開館したと同時に正式に遺跡ガイドの活動を開始。
- 代表 上田 敏雄
- 連絡先 0195-32-2652
(御所野縄文博物館内事務局)



竪穴式住居の中で来場者に解説を行う会員

●主な活動

遺跡ガイドの他に、火おこし体験の指導、土器を使った煮炊き体験の見守り、縄文まつりなど博物館主催のイベントでの体験補助や来場者の受付など幅広く活動をしている。湿気による建物の傷みを防ぐため、週3回全ての竪穴建物内で火を燃やす作業を行い、その際に火をおこす役目もメンバーの方たちが担っている。

御所野遺跡を支える会の現在の会員は50代から80代の28名。「無理せず、楽しく、コツコツと…」をモットーに、年間約150回、およそ三千人の県内外からの来訪者に対して遺跡ガイドを行っている。

代表を務める上田敏雄さんは、「より多くの地域の人たちに縄文遺跡の価値を理解してもらい、誇りを持って次の世代に伝えて行ってほしい」と語り、「今後は小中高校生のガイドをもっと増やしたい」と後継者の育成にも意欲を燃やしている。



子どもたちに“火おこし体験、を指導する様子